

平成26年9月18日

人生90年時代の到来

9月15日は、敬老の日でしたので、この話をしたいと思います。高齢者と云われる年齢は、65歳からで、私もその一員になっています。しかし、最近の意識調査によりますと、70歳以上を高齢者と考えている人が42.3%になっています。私もまだ現役ですので、高齢者だとは考えていません。

敬老の日は、平成14年(2002年)までは毎年9月15日になっていましたが、平成15年(2003年)からは9月の第3月曜日になりました。今年はたまたま9月15日になりました。

なお、敬老の日を第3月曜日に移すにあたって、高齢者団体から反発が相次いだため、平成13年(2001年)に老人福祉法第5条を改正して9月15日を老人の日、同日より1週間を老人週間とした。つまり、敬老の日と老人の日の二通りあることになります。

敬老の日は、国民の祝日に関する法律第2条によれば「多年にわたり社会に尽くしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う」ことを趣旨としています。

敬老の日の始まりは、兵庫県多可郡間谷村(現在の多可町)の門脇政夫町長と山本明助役が、昭和22年(1947年)に提唱した「としよりの日」が始まりです。農閑期に当たり気候も良い9月の中旬の15日を「としよりの日」と定め、従来から敬老会を開いていた。これが、昭和25年(1950年)からは兵庫県全体で行われるようになり、後に全国に広がった。敬老の日は、母の日のように外国から輸入された記念日と違い、日本以外の国にはありません。

ついでながら、70歳以上になりますと、宇部市営のバスの乗車賃がどこまで行っても100円です。私も大いに利用しています。

総務省が今年の敬老の日に発表した日本の高齢者(65歳以上)の人口の推計は、3,296万人で、3,000万人を超えています。これは日本の総人口の25.9%になり、実に4人に1人が高齢者で占めることになったわけです。また、75歳以上が1,590万人となり、いずれも過去最高になっている。これは、「団塊の世代」の昭和24年(1949年)生まれが65歳になったのが一因です。現在、日本の男性の平均寿命は、80.21歳。女性は86.61歳。男性は、世界で第4位、女性は世界一の長寿国です。「団塊の世代」の65歳の「平均余命」は男性19年、女性24年で戦争直後の実に2倍に延びたそうです。

参考までに申し上げます、宇部クラブ会員の平均年齢は65.3歳。60歳代は19名で最多になっています。

また、厚生労働省発表の『健康寿命』というのがあるそうです。健康寿命とは平均寿命と異なって、「人のお世話にならず、健康なまま自立して暮らせる年齢」だそうです。この「健康寿命」が日本の男性だと平成24年（2012年）の平均で70.42歳、女性が73.62歳だそうです。平均寿命から健康寿命までの差が、男性で9.13年（ほぼ10年）、女性が12.68年で、この差が縮まるにこしたことはありません。

体の健康が第一。それと同時に心が健康でなければなりません。少し気がかりなことは、平成22年で「認知症高齢者」が全国で439万人を超えているとの推計です。65歳以上人口の実に10人に1.5人が該当しているわけです。

人生90年時代の到来が予測され、私たちは心身共に健康で90歳を全うしたいものです。

これで会長の時間を終わります。